

長い旅

彫刻家 國松明日香

沢山のお世話になった人達との惜別があった年が終わろうとしている。

大学時代の恩師であった舟越保武先生が二月に他界し、四月には大学院時代の恩師であった千野茂先生も続いて他界された。舟越先生は端正な彫刻を数多く制作されたが、特に「長崎二十六聖人殉教記念像」や「病醜のダミヤン神父」などの精神性、社会性を持った彫刻作品で、高い評価を得ていた。勿論本郷 新先生とも大変親しく、よくご一緒に北海道で釣りをしたときの話をしてくれた。

一方、千野先生はそのお人柄が彫刻に結実したような作風で、「日本の美とでも言うべき作品群を数多く残された。北海道教育大学の函館分校と岩見沢分校で永年非常勤講師として集中講義をされ、北海道とも縁が深かった。私が卒業制作作品を作っているときに、裸婦像のふくらはぎの形をじかに直していただいたときの感動は今も忘れられない。

市立小樽美術館で父との二人展開催日前日の五月三十一日に、母が他界した。誰よりもこの展覧会を見ることを楽しみにしていただけに残念でならない。

奇しくも三人とも享年九十歳であった。三人には、いつも迷惑と心配ばかり掛けてきた。悔いが残る。

八月三十日の朝、彫刻家集団「サンク」のメンバーのひとりであった丸山 隆君の訃報が入



本郷 新 彫刻シリーズ 2

戦没学生記念像 (わだつみのこえ)

長万部町平和祈念館

った。病の重さは本人から告白されていたが、訃報のしらせは本当に辛かった。彼が北海道教育大学に赴任されてまもなく交遊が始まった。数多くの展覧会で一緒したが、「サンク」として「石山緑地」のデザインや彫刻の制作に関わったことが、私にとって何よりの宝となった。私よりも七歳若かったが、やはり彼からも沢山の事を教わった。

もう皆さんにお会いすることが出来なくなってしまった。とても悲しく辛い、今は長い旅に出ていて、いつかは戻ってくるのだと暫くは思うことにしよう。

「北の彫刻展2002」に参加して

彫刻家
岡沼淳一



展覧会が近づきスタジオから作品が選り出された後も「ベストを尽くしたか」、「作品の質は？」と自らに問いかける度合いが年齢とともに深まってきている。

5月28日は日勝峠も樹海ロードも晴天だったのに、札幌の街中は視界が遮られるような豪雨だった。しかし、北1条通りの大鳥居のあたりで雨は止み、青空が戻ってきた。

札幌彫刻美術館に着いた時、前庭にはすでに伊藤さん、菅原さん、寺田さんの石の彫刻が設置されていた。今しがたの夕立が不純なものを洗い流した如く、芝生はみずみずしい緑となり、透き通った陽光が彫刻にあたっている。その光景の何と新鮮なことか！　ヘンリー・ムアが「陽の光が彫刻には必要だ」といったというが、この光がそうなのだと感動しながら館内に入り、吹き抜け2階を見上げると川上りえさんの作品が会場を圧する勢いで存在し、今回は新メンバーによる佳い展覧会になりそうだという予感がした。

私に与えられた空間のひとつは、エントランス・ホールの吹き抜け空間であった。ここは黒色の手摺と鑑賞者の多様な視点の位置が難題であった。この空間とのバランスを考慮して円柱と逆三角錐を基本形として拡散していく彫刻「冬陽」を制作した。「三角錐がすくっと倒立し・・・」「緊張感が際立つ・・・」などと見た人にインパクトを与えたことで答えをもらったように思った。

2Fの空間には「寒流」を、通常の展示では通路になる部分に、設置することにした。このことにより階段側の視点から見ると私の狭いスタジオで見るのとは違う姿を確認できた。

今回展に参加して彫刻美術館の高低差のあるフロアから生じる多様な視点の位置を意識しての製作は結構スリリングで面白かった。また、故田上さんが設計されたこの空間は彫刻家に対して挑戦的な空間であることを思い知らされた「北の彫刻展2002」だった。



(冬 陽)

札幌彫刻美術館行事カレンダー

平成14年度後期

「本郷 新収蔵品展」

本館：素材と表現展

記念館：素描展

平成15年3月23日(日)まで

「第4回造形教室」

平成15年2月22日(土) 23日(日)

「春雪の三角山」 ステージ VI

平成15年3月15日(土)

井上学芸員とのインタビュー

現在、今年度後期本郷 新収蔵展として本館では「素材と表現」、記念館では「素描展」が開催されています。「北の彫刻展2002」が終わった後の年2回の収蔵品展です。

井上学芸員にお話を伺いました。

聞き手：高橋淑子・吉田修子編集委員

Q (編集部) 前回同様、まず、この展覧会の見所からお話ください。

A (井上学芸員) 本館では、ブロンズ作品の多い本郷新が木・石・テラコッタ・コンクリート・樹脂という色々な素材に興味を持ち、チャレンジ精神を發揮しながら材質と向き合うことでその素材にあった表現方法をとっている、というのを見て頂きたくてテーマを決めました。

Q それは、木の作品は厚みを感じられ、テラコッタ作品では素朴な雰意気を、また石で作ると形がとも単純化されているというようなことですか？

A そうですね。同じ「浜の女」という女性の頭像が2点展示されていますが、ブロンズと軟石という素材の違いによって表情まで違って見えます。また木の作品「里女」では木目が生かされています。

Q 本郷 新はすべての素材を自分自身で手掛けているのですか？

A はい、展示しているものには工房などに制作をまかせたものは無いと思います。ブロンズの場合はどうしても鑄造所を利用することになりますが、石や木は仕上げまで本人ができますから。テラコッタの作品「土と火の祭り」は、1960年代に小樽の春香山のアトリエで集中して制作されたものです。記念館の「素描展」では、雑誌のカットに使われたものなど、彫刻以外の一面もご覧頂きたいと思います。

Q 本館に展示されている「雪国」のように、彫刻作品を作る前に習作として数多くデッサンすることが普通なのでしょうが、自分の作品を見て描くということもあったのですか？

A ええ、美術館に収蔵してあるデッサンの中には完成した彫刻を後から描いたと、推定できるものも幾つかあります。

Q ところで、単刀直入に伺いますが、友の会の会員の中から「年2回の展示替えというのは本郷 新の彫刻だけで631点も収蔵している美術館としてはいささか少な過ぎるのでは。もっと沢山の作品を見たい」などという声がありました。

予算などの諸事情からと思いますが、素直にお聞かせください。

A 私たちは、収蔵品展の展示替えについてはだいたい4人の職員のみで行っているのが実状です。木の作品などは4人がかりでやっというほど重いのです。今回は幸いにも「北の彫刻展2002」の撤収作業を頼んだ業者に重い石をついでに運んでもらい、久し振りに展示することができました。

Q テラコッタの作品などは小さくても壊れやすく、気を使うのでは？

A ええ、小さくても楽ではありません。

Q どの美術館の図録を見ても作品の重さについて記述は見られませんが...

A そうですね、重さは、展示する時以外に重要な要素で無いですから。樹脂の作品、たとえば「雪国」は高さが197cmもあるのに軽くできていますので私一人でも汗一つかかずに運べます。

Q 見た目ではわかりませんか。

A 展示作品については、本郷 新のファンであればなおさら、「この作品を見たいんです」と名指しで訪れる方もいらっしゃいますが、展示してなくてもっかりされ、また代表作と言えるものばかり常設展示すると今度は「変り映えがしない」とお叱りを頂きます。

Q 小さな、個人作品のコレクション美術館の抱えるジレンマですね。

本日は色々と裏話まで率直にお話し頂き、有難うございました。今後は友の会の会員だけでも、このようなお話を伺って理解を深めたいと思います。

A 友の会の方にこそもっと収蔵品展を見て頂くよう希望しています。

本郷 新 後期収蔵品展

素材と表現展と素描展

平成15年3月23日(日)まで開催

友の会の臨時事業

宮の森サンクスデー支援プロジェクト

友の会会長 橋本信夫

目的 彫刻美術館では数年前から秋期に、宮の森サンクスデーとして宮の森地区住民に美術館を一日無料開放している。

友の会は本美術館と地域住民との一層の交流を期待してサンクスデー（文化の日）の積極的なPRを図るとともに、当日は本郷 新収蔵展開催期間中なので、入館者に本郷作品の解説や鑑賞のお手伝いをする事とした。

理由 なぜ友の会の支援が必要か！

- 1 美術館にとって地域住民の協力は極めて重要と思われながら、近年、館と地域住民との日常的な対話や情報交換が少ないうえ、住民サービスも積極的にはなされていない。このため館の諸事業に対して地元住民の関心が最近非常に薄れてきた。
- 2 館の行事に対する地域住民の興味を深め、協力を得るには館の事情に詳しい地元会員の協力が極めて有効且つ重要と思われる。しかし、会員による組織的な支援活動は過去10年間ほとんど行われていない。
- 3 サンクスデーは数年前から実施されていたにもかかわらず企画に新味が乏しく、また地元町内会でもほとんど話題にされていない。このため去る9月23日（秋分の日）に行われたサンクスデーの地元入館者はわずか14名に過ぎなかった。

以上のように、館と住民との交流の現状からみて入館者数の低迷は当然の帰結と思われる。

現在、会員の約1/4（22人）が宮の森地区住民で占められているので、これらの会員を中心に実行委員会を設け、サンクスデー支援プロジェクトを企画・実施することとした。

（本館ロビーの受付風景）

宮の森サンクスデーを終えて

サンクスデー実行委員長 野崎泰男

今回は、先月のサンクスデー来館者を大幅に上回る100人近い来館者があり、かなりの手応えを感じました。これは今後のサンクスデーのあり方を考える上で大いに参考になると思われます。

彫刻美術館側の友の会に対する信頼と館に対する友の会の協力体制が今回の大きな関心事でしたが、これで今後の方向が見えてきたように思われます。

彫刻美術館は本郷記念館と二棟に分かれているので解説する側も大変なことだと思います。各会員が解説のスキルを高め、解説のお手伝いができるようにすることも、来館者に対する心づくしと思います。今回数名ながら会員の中から解説のお手伝いできたことが来館者に好評でした。さらに今後は地域に捉われず、広く札幌市民にサンクスデーを開放して大きな祭りに盛り上げてほしいのではないのでしょうか！

一般に美術館は、その土地の芸術や作家の活動ぶりをを知る上の格好の場所であるばかりでなく、地域住民の関心をそそる場でもなければなりません。札幌で彫刻と名の付く美術館は宮の森のこの館だけです。多くの人々に存在をアピールし、また当然のことながら本郷 新ばかりでなく多くの彫刻家の作品に触れる機会を作ることも、此の館に与えられた大事な使命だと思います。

今後美術館と友の会との緊密な連携プレーで、出来るだけ多くの人たちに彫刻の素晴らしさを知っていただけるようになることを念願して！



サンクスデー支援に参加して

会員 齊藤美年子

11月3日の文化の日、地元宮の森地区住民を対象にした札幌彫刻美術館主催のサンクスデーに、館長のご理解の下に友の会も協力させて頂くことになりました。

何しろ日程の迫った中での支援だったため会長と実行委員会を中心に早急に実施計画を作り、地元宮の森地区や学校関係の方々にPRをしなければなりません。そして文化の日にふさわしい意義のある一日となりますよう念じながら当日を迎えました。

当日、三輪館長より参加会員へのご挨拶の後、不慣れな会員のにぎやかな受付のもとで百名近い鑑賞者を迎えました。中にはいく組みもの家族連れが見受けられ、彫刻を前にしての和やかな親子の語らいの情景を微笑ましく感じました。また解説会員による熱のこもった作品説明に大勢が耳を傾けていたことにも、今後の支援のあり方を考える上で大層心強い思いをしました。

参加役員によるお茶やお餅の接待なども、いつもとは違った和やかで親睦的な美術館の雰囲気作りに効果があったようです。

少々寒かった宮の森緑地の遊歩道（通称なまこ山）の紅葉が美しく映え、「太陽の母子像」がとても印象的でした。

彫刻美術館を訪れて

福永正子

ボランティアに参加している母にこんなイベントがあるよと聞かされて、何年かぶりに見学させていただきました。

館内は2階もあるのに作品が少なく、短時間で見て回ってしまいました。しかも、外にある彫刻と違って、なにやら素人には分かり難く、「これはいったい何？」と考え込んでしまう作品が多々ありました。隣にあった記念館に個人のゆかりの品々があったそうですが、そこは見損ねてしまいましたが、本郷先生のみとか、机とか、通信簿とかが展示されていたら楽しい

でしょうね。また、新進の彫刻家の作品を本館で見られるといいですね。

母も含めたボランティアの方々、サンクスデーではお疲れ様でした。

晩秋の「なまこ山」散策

会員 濱 久子

札幌彫刻美術館の「宮の森サンクスデー」のお手伝いで、私は桑原ご夫妻を「なまこ山」にご案内した。何度か歩いたことがあるが、晩秋は初めてである。

入口に、大きな藤棚があり、そこには本郷新の「鳥を抱く女」像がある。早速登ったがいろいろ珍しい発見があり、その一つが葛の発見である。このあたりは葛の森だと橋本会長さんに言われた。立ち木に葛の蔓が巻きつき、こげ茶色の枯れたはなびらが沢山ぶらさがっているのを見つけた。数年前までは彫刻美術館への道を歩いていると、空き地に葛の花のなんともいえない香りが流れてきていたが、最近は豪邸が建ち、見かけなくなったことを寂しく思っていただけに「なまこ山」の葛は嬉しく、今からわくわくしている。そして、彫刻美術館の駐車場の奥にも葛を見つけ、これまた驚きだった。

二つ目は、桑原さんのご主人が榎の木を見つけ、びっくり。故郷の新潟で、榎の実を炒って食べたことを懐かしみ、実を捜したが、実ってはいなかった。自生はしないので、誰かが故郷の木を植えたのだろうと言うことになった。緑の濃い、いちいのような木である。

そして出口でも本郷 新の傑作「太陽の母子」、お母さんの優しい笑みに心の和む、素晴らしい作品に出会う。

雪が解けると春の野草が沢山咲き、6月は藤棚の藤、コムクドリも沢山くるという、四季折々の楽しい発見のあるこの「なまこ山」が、ますます大好きになった私です。

来年は彫刻美術館を見学した後、「なまこ山」に登り、山頂で鳥の鳴き声を聞きながらおにぎりを食べる半日散策はどうでしょうか！

サンクスデー反省会

去る11月11日、宮の森の画廊喫茶季羅で昼食を頂きながらサンクスデー支援についての反省と意見交換を行いました。

出席者は、美術館から三輪館長と森川主任の2名、実行委員会からは野崎、仲野、齊藤、高橋と橋本の5名、計7名で、野崎実行委員長が司会を務められました。

今回のサンクスデーでは来館者総数が97名、うち宮の森地区住民63名、会員18名、一般来館者16名でした。前回9月23日の地元住民の入館者が14名でしたから、約4倍多く、支援の効果があったものと判断されました。

このお手伝いは、新生友の会としての最初の支援事業でしたから、会側の全員から交々、主に①館に対する協力体制の在りようと②美術館事業のPR媒体としての友の会の役割、の二点について美術館側の意見・意向が求められました。しかし残念ながら館側のお二人は主にメモするばかりで、今後に向けた指針となるような説明・発言は全くありませんでした。

この後、サンクスデーアンケートの解析結果の評価を行って散会しました。(橋本)

宮の森にある本郷 新の彫刻(4点)

鳥を抱く女

本郷 新が小学校4年生のとき、女の子が鳥を抱いているのに出会った。羽ばたこうとしながら、それでも少女の胸に首を寄せるニワトリ、それを抱く少女の体温。その光景が忘れられず、生涯に14点の「鳥を抱く女」を作った。

- * 宮の森明和会館前
- * 宮の森緑地遊歩道「なまこ山」南側登り口

道内にはこの他次の6箇所にある。

札幌市中央区南9条西1丁目

札幌市中央区北3条西3丁目

札幌市南区芸術の森2丁目芸術の森美術館

長万部町平和祈念館

滝川市美術自然史館

釧路市観光国際交流センター

太陽の母子

親子の暖かい心の交流と北の大地に生きる人々が求める暖かい太陽を表現!

- * 宮の森緑地遊歩道「なまこ山」北側登り口

道内にはこの他次の2箇所にある

江別市大麻公民館と稚内市宝来公園

奏でる乙女

ギターを持つ愛らしい少女!美しい坂道に懐かしいメロデーが流れる。原型は1953年作のセメント像。1975年ブロンズ像として東京の六本木交差点に設置。同じ像を、彫刻美術館前の道路改修を記念し、美術館から近くの三叉路に移設。



(鳥を抱く女)



(太陽の母子)

忘筌庵のこと

彫刻家 米坂ヒデノリ

十年まえ、栗山町内に私設の彫刻美術館を創った。莊子の外物編からいただいて、「忘筌庵」(ぼうせんあん)と名付けた。が、中身と同じだけ外側も大切だということに思い到るまでには、少々の時間を要した。

勤めている釧路短大の卒業生に請われて、色紙に「忘筌」と書き、外見よりも中身が大事という意味だ、などと得意気に説明したのは若気のいたり。今思うと汗顔ものであった。

バリア・フリーに建て替えようと思ったこともあったけれど、一種専用住宅地という網が掛けられているので、と、地元の役場でハネられた。

毎年6月から10月一杯、毎週日曜日の午後1時から5時までの開館である。ときどきは展示替えをして、来館者の再訪に期待している。

再見・鶴首



(忘筌庵にて)



(アトリエに到着)

米坂ヒデノリ先生の彫刻にふれて

会員 三上正一

秋晴れの青空の下、研修バスツアーの参加者65名(うち会員30名)は、栗山町の「米坂先生のアトリエ」をめざして出発しました。また、途中、休憩しながら「忘筌庵」に到着し、ふくろうに迎えられて米坂先生の彫刻の世界へと誘われます。もうひとつ別の世界という意味が示すように作品を通して米坂先生の想いが伝わってくるような空間でした。

そして、いよいよ“アトリエ”～木工工房～そこは米坂先生の彫刻の真髄、すばらしい作品に圧倒される空間でした!

赤い靴の女の子のお母さんの作品のエピソードをはじめ、多くの作品のお話を聞き、作品を見る目が変わるようでした。また、米坂先生は今、マザーグースの作品を作成中、ということまでお聞きしました。



(忘筌庵中庭の作品)

米坂先生の彫刻の世界を心行くまで感じた後は、栗まんじゅうと小林酒造の栗山町のふたつの味覚を堪能し、昼食をかねて北村温泉へ!

北村温泉では、心ゆき届いたもてなしをうけるとともに旅の疲れを癒す湯につかることが出来ました。

温泉からの帰路には、石川啄木歌碑を見学するなど、まさに“芸術の秋”を満喫した一日でした。

研修旅行に参加して

新会員 吉田二郎

友の会主催による、米坂ヒデノリ先生の美術館(忘筌庵)とアトリエを訪ねての美術鑑賞と、途中立ち寄る北の錦酒造と北村温泉の特別企画に期待しての研修旅行の参加である。

2台のバスに分乗、札幌市街を過ぎた頃からトンボの飛び交う姿が見られ、ほっとした気分を味わいながら目的地へ向かう。

栗山町の忘筌庵とアトリエでは、先生が直接数々の作品を前に、説明と質問に懇切に答えられ、作家の彫刻への情熱を感じさせられる。不揃いな石や木材に造形を与え、完成したときの感激は造る人の特権かもしれない。そんな作家の思いと、道具の多さに触れたとき、忘筌庵と名づけた由来に納得し、アトリエを後にした。



(忘筌庵前庭のフクロウ像とともに)

初めてのツアー

榛葉正子

彫刻美術館友の会ツアーにお誘いいただき、楽しいひとときでした。感謝しております。

アトリエまで見学でき、とても印象に残っています。どんな過程でできるのかが分かることで、作品の素晴らしさがより一層理解できるような気が致しました。



楽しいバスツアー

会員 岡本憲子

晴天に恵まれた楽しい一日でした。まず、米坂先生の工房で愛らしく、やや太めの猫の彫造に感動しました。先生の優しさが伝わりました。

120年の歴史ある造り酒屋では、沢山試飲させていただきました。

北村温泉で美味しい昼食をいただき、支配人の案内と「石川啄木恋物語」のプリントから北村牧場とかかわりを知り、驚きました。また橘千恵子さんを知り、こんなところで文学史の勉強ができたことをうれしく思いました。

ツアーに参加して

会員 桑原昭子

秋晴れに恵まれた友の会ツアーは栗山町へ、米坂ヒデノリ彫刻美術館にて米坂先生のお迎えをいただき、展示されているひとつひとつの作品の説明をおききすることができました。公開されることのない制作工房も見学し、触れて視て制作工程等も良く理解することが出来ました。



(アトリエ前で)

米坂先生の工房を尋ねて 会員 屋中厚子

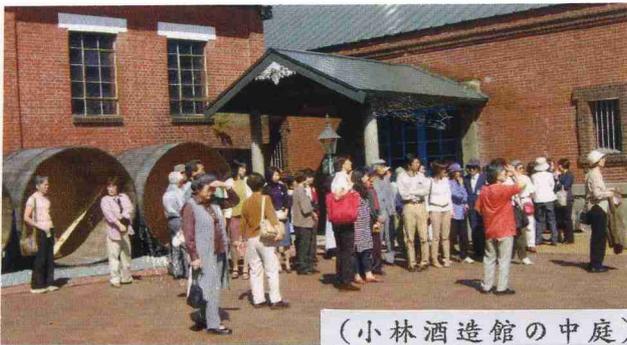
米坂先生の作品のすばらしさとお人柄に触れ、幸せなひとときでした。忘筌庵そして工房も見学させていただきましたが、私は粘土で人形を作っている仕事柄、先生の道具が目につき、またお仕事の様子も拝見できて大変うれしく思いました。そして北村温泉も最高でした。

感想

会員 三味由美子

快晴に恵まれ、絶好の旅行日和でした。初めての参加で不安と緊張でいっぱいでしたが、バスの中ではいろいろな方とお話しながら、楽しい一日を過ごすことができました。

米坂先生の美術館とアトリエをお尋ねしていろいろな作品に触れることができ、沢山のことを学べたように思います。



(小林酒造館の中庭)

過日の研修旅行

新会員 森 茂樹

彫刻家の工房というものを拝見させていただいたのは初めての経験です。

太い丸太を工場にあるような機材を使い、自分のイメージした形に粗加工して長時間かけて仕上げるには、一に体力、二に気力、三に持久力等が必要です。先生がおひとりですべてをこなされてるようですが、まもなく70歳を迎えるお年頃、長く仕事を続けるためにも、ぜひ弟子を持たれてはと感じました。

今の若者にもくなくなにかを求めている人がいるはず。そういう若者を見出し、育ててください。富良野塾の倉本先生のような考えは如何でしょうか。

研修ツアー

棚川リツ子

緋雲棚引く秋晴れの一日、自然体のアトリエに「不苦勞」とアザラシの造形に学究肌の先生との三重奏があり、「酒に亀」のアングルに美酒の薫りが、さらにきびだんご、北村温泉と会席料理等、本物に出会った満足感はいつまでも心地よく残った。



(アトリエにて)

研修日帰りバスツアー記録

平成14年9月16日(月:振替え休日)

1. 参加者 65人 (1号車42人; 2号車23人)

会員 30人 一般 35人

2 スケジュール

出発 NHK前 9時10分

休憩 江別市市民会館

見学 米坂先生のアトリエ訪問

買物 美津和ひつじ屋、小林酒造

昼食・入浴 北村温泉

見学 啄木碑

帰着 NHK前 17時34分

3. 今後に向けて

* アトリエ等の訪問が主であれば、それに合わせた日程と時間を考慮すべき!

* 参加費、特に交通費をどうするか!



(米坂ヒデノリ先生を囲んで:アトリエ前)

こんな事がありました！

可愛い彫刻探検隊

ここは宮の森明和会館。11月30日、土曜日だが編集委員の皆さん、時間を割いていずみ2号の編集中。9時から始めてもう3時間。みんな熱心！論点があっちこっちになったり、時には反論も！舵とりに忙しい！

と、ドアが少し開いて～こんにちは～の声！見ると二人の少女が目をパチパチさせながら立っている。どうしたの？ と聞く近くの濱さん。

「あのう～すみませんが表の彫刻のことで」と。よく聞くと、大倉山小学校の自主研修で彫刻美術館を取り上げることになり、本郷 新の作品をたずねてこの会館まできたが、誰もいないので話し声のするこの部屋を開けてみたとのこと。

* それでは、悪いけれど少し待っててね！

* ハーイ！ そして会議を終えてから部屋へ。「何を聞きたいの」と！ たどたどしい言葉を要約すると、鳥を抱く女**は札幌に何点あるのかということと本郷 新とはどんな人？ということでした。（** 写真と記事：6 ページ）

ああ、それは私の出番、とみんなの声。それでは後で資料を送るからね、と住所を聞く。

家に帰ってすぐ対応をと思ったが、いずみの分担分の編集が先。これが終わってやっと探検隊の課題に取り掛かる。さてどうしたものか、といろいろと悩む。この字は、この文章は！たどりついた結論は、簡潔に、分かりやすく本郷 新の素晴らしさを伝えること。

それでこんなふうになりました。

さかいよしえさんとふくもとまみさんへ

11月30日は寒い中、勉強たいへんでしたね。12時まで部屋を借りて会議中だったので待ってもらいました。

質問に答えるのは簡単ですが、これを機会に芸術がもっと好きになって欲しいと思って、本郷 新先生の子供の頃のお話も紹介します。

(1) 本郷 新先生の作品は

(2) 本郷 新先生の歩み

(3) 少年時代の本郷 新先生

(以上A4、3ページ)

このように纏めて送りましたので、編集委員の方々にご報告します。それで、どんな発表になったのかなあ、と気になる私です。

会員 仲野三郎 (元副会長)

宮の森サンクスデー アンケート調査

札幌彫刻美術館友の会

サンクスデー実行委員会

日時：平成14年11月3日 文化の日

場所：札幌彫刻美術館本館

入館者数 97名

回答枚数 37枚

回収率 38.2%

質問項目

1	宮の森サンクスデーを知っていましたか？												
	はい 24 (64.2%) いいえ 13 (35.1%)												
2	はいの方：何で知りましたか？												
	<table border="0"> <tr> <td>回覧板</td> <td>ラジオ</td> <td>友の会案内</td> </tr> <tr> <td>14 (51.9%)</td> <td>0</td> <td>5 (18.5%)</td> </tr> <tr> <td>知人</td> <td>チラシ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 (22.2%)</td> <td>2 (7.4%)</td> <td></td> </tr> </table>	回覧板	ラジオ	友の会案内	14 (51.9%)	0	5 (18.5%)	知人	チラシ		6 (22.2%)	2 (7.4%)	
回覧板	ラジオ	友の会案内											
14 (51.9%)	0	5 (18.5%)											
知人	チラシ												
6 (22.2%)	2 (7.4%)												
3	札幌彫刻美術館に来たことがありますか？												
	<table border="0"> <tr> <td>初めて</td> <td>1回</td> <td>2-3回</td> </tr> <tr> <td>19 (50.0%)</td> <td>1 (2.6%)</td> <td>9 (23.7%)</td> </tr> <tr> <td>4-5回</td> <td>それ以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 (5.3%)</td> <td>7 (18.4%)</td> <td></td> </tr> </table>	初めて	1回	2-3回	19 (50.0%)	1 (2.6%)	9 (23.7%)	4-5回	それ以上		2 (5.3%)	7 (18.4%)	
初めて	1回	2-3回											
19 (50.0%)	1 (2.6%)	9 (23.7%)											
4-5回	それ以上												
2 (5.3%)	7 (18.4%)												
4	本郷新収蔵展の感想をお聞かせください！												
	<table border="0"> <tr> <td>良い</td> <td>普通</td> <td>つまらない</td> <td>分からない</td> </tr> <tr> <td>35 (94.6%)</td> <td>2 (5.3%)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	良い	普通	つまらない	分からない	35 (94.6%)	2 (5.3%)	0	0				
良い	普通	つまらない	分からない										
35 (94.6%)	2 (5.3%)	0	0										
5	作品のガイドは必要でしょうか？												
	<table border="0"> <tr> <td>あった方が良い</td> <td>ない方が良い</td> <td>どちらでも</td> </tr> <tr> <td>29 (76.3%)</td> <td>4 (10.5%)</td> <td>5 (13.2%)</td> </tr> </table>	あった方が良い	ない方が良い	どちらでも	29 (76.3%)	4 (10.5%)	5 (13.2%)						
あった方が良い	ない方が良い	どちらでも											
29 (76.3%)	4 (10.5%)	5 (13.2%)											
6	なまこ山(宮の森緑地)の本郷 新作品を知っていましたか？												
	はい 19 (50.0%) いいえ 19 (50.0%)												

「北の彫刻展2002」の一日

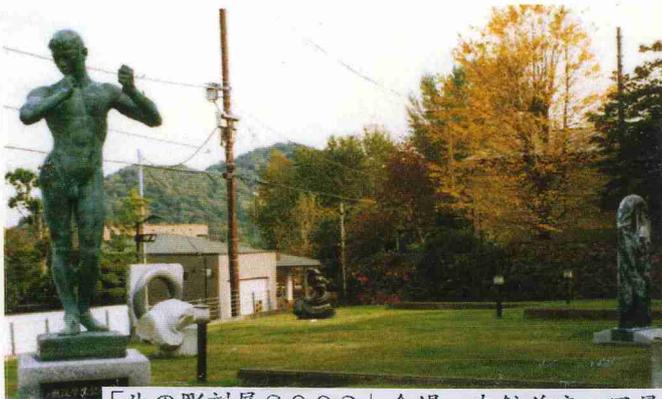
今日は9月3日、天気も良い。と、友達から美術館に行かないかとの誘いの電話。

そう言えば新しく衣替えした北の彫刻展をやっていたっけと開館時間に合わせて家を出る。中島公園駅で待ち合わせ。そろそろ紅葉だねと公園を歩いて美術館へ。

本館に入って図録を求める。渡されたチラシに目を通しながら振り返ると～ごあいさつ～の看板が、読み出してびっくり。出だしに；出品作家を刷新した：云々の記述、10回展まで楽しみに見てきた一人としてただただ啞然。出品の場があれば、手弁当でもとの思いで出品・協力してきた作家がどんな思いでこの文章を読むのだろう、と暗い気持ちになった。

2階に上がる、踊り場に岡沼淳一さんの冬陽がある。なかなか面白いフォルム。冬日でなく冬陽にした作家の気持ちを押し測りながら階段を上がる。と、突然目の前に異様なものが、やはり岡沼さんの「寒流」という作品が立ちはだかる。階段を上がるので足元に目をやっていたから作品と判断するのに一寸時間がかかった。照明も暗い。

奥の展示室へ、石の作品が3点。寺田さん、菅原さんと見て回り込むと藤井さんの「萌芽」がある。木の4点作品、削った鉛筆のような印象、こんなことを言うと作家に怒られるかなと思いつつ次へ。



「北の彫刻展2002」会場 本館前庭の風景

更に進むと大きな鉄の作品。川上りえさんの「In a Change of Scenery」だ。Changeは交替/変化、Sceneryは風景、どんなイメージかなと思いつつ側を通り過ぎる。設置の空間に対し、作品が大き過ぎるので鑑賞と言う気持ちになれず、ただその脇を通るだけ。

小川誠さんの「相観一母子の思い」を最後に表にでる。

表には菅原尚俊さんこだわりの「始まりの石」、伊藤隆弘さんの「未生」など、見ごたえのある作品があるが、生憎止まっている派手なバスの色が重なる。

何かひっかかるものを感じて後ろを見るとそこに[わだつみ像]が、更に砂、ライラックと本郷 新の作品が3点もある。これでは折角の作品も負けてしまうと思いつつ坂を下りる。

ふっとおかしな事に気が付いて貰ったチラシに目をやる。見てきた作品とチラシの写真が違う。何これ！ 鑑賞の記念に取っておこうと思つて持ってきたがこれではダメだ。

あいさつ文に作家の生々しい証として次へと挑む不屈の精神を感じて欲しいとあったが、見終わっての感想は散漫で薄暗かった。

第9人目の彫刻家

- * 8人の作家による「北の彫刻展2002」を見に訪れた。
- * 本館の前庭を見渡して、最初に目にしたのは「わだつみのこえ」像であった。
- * 関係者には自明でも、初めての入館者にとってカタログにもない不明の作品である。
- * 8人展を謳う以上、この存在について何らかの説明を要するのではなかろうか！
- * さもなければ、前庭の本郷 新作品群と北の彫刻展作品群との意図的な対比、と思われても仕方ない。
- * 果たしてどうなのだろうか！

「北の彫刻展2002」の一日

今日は9月3日、天気も良い。と、友達から美術館に行かないかとの誘いの電話。

そう言えば新しく衣替えした北の彫刻展をやっていたっけと開館時間に合わせて家を出る。中島公園駅で待ち合わせ。そろそろ紅葉だねと公園を歩いて美術館へ。

本館に入って図録を求め。渡されたチラシに目を通しながら振り返ると～ごあいさつ～の看板が、読み出してびっくり。出だしに；出品作家を刷新した：云々の記述、10回展まで楽しみに見てきた一人としてただただ啞然。出品の場があれば、手弁当でもとの思いで出品・協力してきた作家がどんな思いでこの文章を読むのだろう、と暗い気持ちになった。

2階に上がる、踊り場に岡沼淳一さんの冬陽がある。なかなか面白いフォルム。冬日でなく冬陽にした作家の気持ちを推し測りながら階段を上がる。と、突然目の前に異様なものが、やはり岡沼さんの「寒流」と言う作品が立ちはだかる。階段を上がるので足元に目をやっていたから作品と判断するのに一寸時間がかかった。照明も暗い。

奥の展示室へ、石の作品が3点。寺田さん、菅原さんと見て回り込むと藤井さんの「萌芽」がある。木の4点作品、削った鉛筆のような印象、こんなことを言うと作家に怒られるかなと思いつつ次へ。



「北の彫刻展2002」会場 本館前庭の風景

更に進むと大きな鉄の作品。川上りえさんの「In a Change of Scenery」だ。Changeは交替/変化、Sceneryは風景、どんなイメージかなと思いつつ側を通り過ぎる。設置の空間に対し、作品が大き過ぎるので鑑賞と言う気持ちになれず、ただその脇を通るだけ。

小川誠さんの「相観一母子の思い」を最後に表にでる。

表には菅原尚俊さんこだわりの「始まりの石」、伊藤隆弘さんの「未生」など、見ごたえのある作品があるが、生憎止まっている派手なバスの色が重なる。

何かひっかかるものを感じて後ろを見るとそこに[わだつみ像]が、更に砂、ライラックと本郷 新の作品が3点もある。これでは折角の作品も負けてしまうと思いつつ坂を下りる。

ふっとおかしな事に気が付いて貰ったチラシに目をやる。見てきた作品とチラシの写真が違う。何これ！ 鑑賞の記念に取っておこうと思つて持ってきたがこれではダメだ。

あいさつ文に作家の生々しい証として次へと挑む不屈の精神を感じて欲しいとあったが、見終わっての感想は散漫で薄暗かった。

第9人目の彫刻家

- * 8人の作家による「北の彫刻展2002」を見に訪れた。
- * 本館の前庭を見渡して、最初に目にしたのは「わだつみのこえ」像であった。
- * 関係者には自明でも、初めての入館者にとってカタログにもない不明の作品である。
- * 8人展を謳う以上、この存在について何らかの説明を要するのではなかろうか！
- * さもなければ、前庭の本郷 新作品群と北の彫刻展作品群との意図的な対比、と思われても仕方ない。
- * 果たしてどうなのだろうか！

友の会だより

新春講演会と新年会

日時 平成15年1月18日(土) 17時30分
場所 不二家 中央区北2西2 電話:221-0284
講師 小野寺紀子先生 全道展会員
岩見沢市出身
札幌デジタル専門学校講師
道新文化センター講師
札幌彫刻美術館造形教室講師
会費 5,000円

彫刻美術館友の会ホーム・ページの開設

チョット、お待たせしましたが
いよいよ彫刻鑑賞の北の発信源として
友の会HPの登場です。
末永くご愛顧を賜りますように!

ホーム・ページ アドレス

<http://sapporo-chokoku.jp>

新会員コーナー

札幌彫刻美術館友の会に入会して

原典夫

去る9月16日、当友の会が主催した「米坂ヒデノリ美術館」を巡るツアーに家族ともども、初めて参加させていただきました。大変楽しく有意義な一日に感激し、早速入会させていただきました。

私は時々、美術館などに行って絵画や彫刻を鑑賞しますが、特に彫刻についての知識、経験に乏しく、橋本会長はじめ先輩会員皆様の特段のご指導をお願いしなければなりません。

私としては、折角友の会に入会したのですから、身近な素晴らしい環境にある宮の森の彫刻美術館の鑑賞研究をベースに、札幌および道内にある多くの野外彫刻にも触れて行きたいと思えます。

原寿子

三年ほど前から齊藤美年子さんとお知り合いになり、この秋のバス旅行にお誘いをいただきました。秋晴れの一日は、終日和やかに楽しく、心温まるものでした。

11月3日のサンクスデーに夫と一緒に参加しました。会員の方のお手造りの草もちも美味しく、紅葉に雪の舞う中、私には初めて「なまこ山」の散策も素敵でした。

当日は主催者の予想をはるかに上回る方々がご来館くださり、館長さんのびっくりされていた様子と橋本会長の笑顔がとても印象的でした。

美術品についてはまったくの新参者です。どうぞよろしくご指導ください。

編集後記

- * 第2号の原稿が予想以上集まり、編集部はうれしい悲鳴です。
- * 不慣れなため、記事とスナップ写真の組み合わせなど、さまざまな試行錯誤をしています。
- * パソコン編集やデジカメなどでご助言、ご協力いただける方を求めています。
- * 会員や読者からの寄稿欄として、新たに「抜海の目」を加えました。甘口・辛口、何でもご投稿ください。因みに「抜海」とは本郷先生の釣のときの雅号です。
- * 第2号のトップを「北の彫刻展2002」でまとめる予定でしたが、館からの原稿が届かず、急遽編集を変えました。
- * 2号の表紙をHPと同じにしてみました。
- * 米坂先生のアトリエ訪問の寄稿文は短くまとめ、原文はHPに載せました。勝手をお許しください。
- * 年頭に当たり、会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成15年元旦

(橋本)

札幌彫刻美術館友の会 会報「いずみ」No.2

財団法人札幌彫刻美術館内 編集責任者 濱久子

〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目

電話とファックス:011-(642)-5709

平成15年1月1日発行